

東日本大震災  
あの日を未来につなぐ、宮城のいま。

2019.12.11

Vol.

44

December.2019

ナウイズ  
毎月11日発行

# NOW IS.

中村雅俊  
in  
女川





女川は頑張りがいがあるまち。  
マンパワーがすごい！

NOW IS. 対談

Talk Session

in 女川 ONAGAWA

どんな人も

「お帰りなさい」と

迎え入れてくれるまち。

今回は、俳優・歌手の中村雅俊さんと、中村さんの生まれ故郷「女川」へ。シーバルビア女川で、OCHACCO代表の内海康生さんと対談しました。内海さんは、昨年女川に店を構えた、いわば「移住組」。それぞれの視点で見る「今の女川」を語ってもらいました。

女川が発するパワーに惹かれて進む人たち

中村雅俊さん（以下中村）「お茶はほっとする時間のお供にも

なるし、健康にもいいし、目の付け所がおもしろいですね。店を構えるにあたって、あえて女川を選んだというのは、どういう理由があるんですか？

女川は、石巻線の終着駅だし、人口減少も激しいし、課題が多い地域だと思っんですが…。

内海康生さん（以下内海）「2016年に東京の会社を辞めて宮城に帰ってきたとき、あえて人口の少ないところから事業をスタートしてみたいと思ったんです。宮城の沿岸部は、震災でダメージを受けましたが、沿岸

Nakamura Masatoshi

中村雅俊

PROFILE

1951年生まれ、女川町出身。慶應義塾大学経済学部に入学生、文学座附属演劇研究所に入所。ドラマ「われら青春！」でデビュー後、俳優、歌手として幅広く活躍している。東日本大震災後は被災地支援やチャリティーなどに尽力した。

なぐむらまさとし

部ならではの文化がたくさんあります。私も気仙沼出身で、浜の雰囲気には愛着があります。

女川は「復興の先駆者」と言われるような場所でもあるし、ここなら、自分たちの想いや商品を世界に発信できる場になるのでは、と。

中村「課題が多い反面、すごく注目されている場でもありますし、頑張りがいがある場所ですね。あと、個人的には、年寄りのマンパワーがすごいと思っています。俺は震災当時60歳だったのですが、同級生のパワーが

すごかった！地元に戻ってくるたびに「中村、あれやるぞ、これやるぞ」と声がかかって。復興に対する熱量があったなと思います。

内海「それはありますね。そういう雰囲気とかパワーとかに惹かれて、30〜40代の若い社長が続々集まっています。ポテンシャルがあるような感じがしますね。

中村「女川のいいところはどんなところだと感じていますか。内海「人がいい！みんな一緒にあって盛り上げようとしてくれ

るし、今はもう、地元より地元感があります。観光などで女川に来た人も、僕と同じように「帰ってきたような気分」になってくれたらいいですね。

中村「店名の「OCHACCO」(おちゃっこ)というのは、いい名前ですよ。女川にいたころはよく、ばあちゃんたちがやってたなあ、お茶っこ。どこかに集まって、お茶を飲みながらおしゃべりするのを、このあたりでは「お茶っこ」と言うんです。内海「「お茶っこしてがい」っ

て言い合っていましたよ。

中村「近所の人たちが日当たりのいい縁側に集まって、お新香やお菓子をつまみながら、庭を眺めてね。子どもは、そのお菓子目当てに、挨拶したりしたものです。「お茶っこ」できる環境は、これからも残してほしいなあ。復興で気忙しくしている時期だから、なおのこと。

内海「昔も今も、お茶はコミュニケーションの手段です。若い人でも「一緒にしゃべろうよ」みたいなときに「お茶しに行こうよ」と言いますよね。自分も、

「OCHACCO」を通して極上の時間をつくる手伝いができたらと思っています。

中村「さっきも言ったけど、女川は石巻線の終着駅でしょう。途中下車はありえないから、女川は常に目的地です。わざわざここに来たからには、「お帰り」と言ってあげたい。「帰って来たなあ」「落ち着くなあ」と思えるような雰囲気がある場所であってほしいと思いますね。

Uchiyumi Yasunari

内海康生

PROFILE

気仙沼市出身。2011年にフレーバーティーの本場であるフランスの紅茶専門店「マリアージュフレール」に入社し、銀座本店、都内各百貨店で6年間勤務。2017年にOCHACCO創業、2018年に女川に店舗を構える。

うちうみやすなり



ここなら、自分の想いを世界に発信できると感じました。



衣装提供: Betty Smith, GUESS

活躍する応援職員

# SUPPORT POWER



2018年7月から、復興支援専門員として復興庁から派遣され、女川町に勤務する旭さん。女川町に来る前は、広島県広島市で司法書士として働いていました。「復興庁による司法書士業務の応援職員募集は、日本司法書士会連合会を通じて知りました。これまで、東日本大震災の復興に携わる機会がなかったので、少しでも復興のお手伝いができたらと志願しました」と旭さん。

復興庁では、登記や戸籍などの用地取得事務の支援として、法律に関する知識に精通している司法書士に対する応援職員の募集を行っています。自治体内部に司法書士がいることで、多様なリーガルニーズに迅速に対応できることが期待されています。

旭さんは、女川町企画課の定住・土地利用係に所属し、主に土地区画整理事業における所有権の移転登記に係る業務に携わっています。「区画整理事業中に自立再建住宅用地などを売買により取得しても、区画整理の手續きが終わる（換地処分公告）までは、登記簿上の宅地の権利者は女川町となっています。区画整理の手續きが終わって、新しい地番など



女川駅からまっすぐ伸びるブロムナード。旭さんのお気に入りの風景です。

## 司法書士の立場から復興を後押ししたい

女川町 企画課 定住・土地利用係 復興支援専門員  
あまひ こうへい  
旭 浩平 さん  
復興庁より 女川町に派遣

の登記が完了してから、やっと土地を購入した所有者への所有権移転登記ができます」と旭さんは続けます。「登記のスケジュールや必要書類、費用などを住民の方に、できるだけ分かりやすく説明できるように心がけています。所有者によって用意する書類が違うこともあり、個別に訪問させてもらうこともあります」

「女川町の主要な復興事業のひとつである区画整理が、今まさに完了しようとしている現場に自分も携われていることにやりがいを感じています。まずは、求められている業務を滞りなく終わらせること。これが一番の自分の役割です。また、職員みなさんが法律の面で困った時に、微力ではありますが、サポートできたらと思っています」と話してくれました。

## AREA information

復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

### 女川駅前商業エリア周年祭 おながわ冬のまつり

女川駅前商業エリアで、開業4周年を祝う様々なイベントが行われます。女川潮騒太鼓の演奏やブラスバンド、ロックスタイルで人気の着ぐるみドラマー「にゃんごすたー」など、ステージイベントが盛りだくさん！24日(火)には、約3,000発の打上花火「おながわ復興祈念冬花火」でクリスマスムードを演出。ぜひ女川町へご家族そろってお越しください。

☎0225-24-8118 / 女川駅前商業エリア周年祭実行委員会事務局 (女川みらい創造株式会社)

- 【ステージイベント】
- 日時:12月21日(土)9:45~15:15、22日(日)10:45~15:30 ●会場:女川町まちなか交流館
- 【おながわ復興祈念冬花火】
- 日時:12月24日(火)18:10~おながわ復興祈念冬花火セレモニー、18:20~おながわ復興祈念冬花火3,000発
- 会場:女川駅前商業エリア※女川満泊の一部は、17:00~19:30まで立ち入り禁止となります。
- 【女川駅前商業エリア 開業4周年感謝セール】
- 日時:12月21日(土)~25日(水)※時間は店舗により異なります。
- 会場:女川駅前商業エリア
- 【歳のみ】
- 日時:12月25日(水)
- 会場:女川町まちなか交流館 ☎0225-53-3310 (女川町工工会)

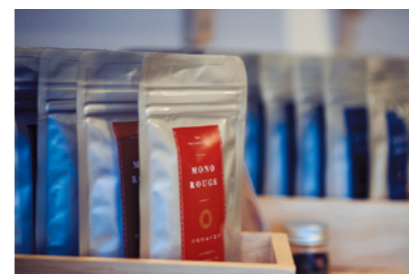


# 希望が見えた2つの出会い。

お茶とビールでつくる新しい交流の場

OCHACCOでは、「日本茶を通じて豊かな時間をコンセプトに、日本茶をベースにしたフレバーティーを製造・販売しています。店の看板でもあるお茶が「モノブルー」。透き通るような水色のお茶です。「おお、本当に青い！」と驚く中村さん。内

海さんは「三陸の海のコバルトブルーを意識したんです。もともとアールグレイは、ヨーロッパの小さな町で生まれたお茶でした。このお茶も、いつか世界の定番になってほしいと思っています」。「復興は、ものごとの新しいかたちを考えるいい機会。既存概念を壊すいい機会なのかもしれません」。



「OCHACCO」の棚には、宮城の特産品を活かしたさまざまなお茶が並びます。



「ガル屋beer」の木村さんと。

「今日2人の話を聞いて、復興はいつか終わるな、と感じました。中村さんは1日を振り返りそう話します。「まだまだ時間が

次を訪れたのは、OCHACCOと同じくシールビア女川に店を構える「ガル屋beer」。店主の木村優佑さんは、2013年に生まれ故郷の女川にUターンし、当時の復興商店街「きぼうのかね商店街」にビアバーをオープンしました。「震災後、何かしないといけないという漠然とした気持ちになりました。そんな時、女川の人たちの話を東京で聞く機会があったんです」と木村さん。「その時、女川の人たちがすごく前向きに頑張っているパワーを感じたんです。自分も、女川の経済を回す手伝いしたいと思っていました。動機でした。1丁関係の会社を辞め、「ガル屋」をオープン。「女川の中の人と外から来た人が一緒に乾杯する場にしたかったんです。そのコンセプトは今も変わりません」。「たしかに、今の店はガラス張りですが入りやすい雰囲気」と中村さん。木村さんは「個室もないので、いつもお客さん同士で話す雰囲気になるんですよ。これからの女川は、女川を知っている人、好きだなと思ってくれる人を増やす必要があります。この店も、そういう交流の手助けをしたいです」。

## ここに注目! NOW IS. EYE'S



「ガル屋beer」では、オリジナルレシピのクラフトビール「女川ホップール」を提供しています。現在は委託して製造していますが、近く女川でもクラフトビールをつくれるようにしたいと思っているそうです。



「ガル屋beer」は、気軽にのぞけるガラス張り。取材中も、近くの店の店主がひっきり顔を出しました。

かかるかもしれないけど、こういうパワーがあれば、いつか必ず、復興は終わったね、と言える日が来ますね。今日会った2人は、やろうと思えば女川以外の場所で活躍できた人です。そういう人たちが、あえて女川を選んだ。すごいことですよ。今はもう、昔の基準では図れない時代になった。ありえないことが平気で起きる。そんな時だからこそ、一見マイナスからのスタートとも思える女川が良かっ



「これは確かに海の色だ」と「モノブルー」を飲む中村さん。

たのかもしれないですね。今女川は新たな道を探る時期にきています。強いウリを見つけて、全国に発信してほしいですね」。

check! 01

阪神淡路大震災の経験が  
活かされなかった  
3.11の被災地。



11月に新潟で行われた、東北ブロックDMAT 参加訓練の様子。東北7県のDMAT と関係機関が連携し、被災地における実践的な訓練が行われました。

DMATは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、災害派遣医療チームのこと。医師、看護師、救急救命士、事務員などで構成され、災害急性期の医療を担います。

日本でDMATが組織されたのは、1995年の阪神淡路大震災の後のこと。「倒壊した住宅の下敷きになったり、外傷の手当てが遅れたりしたために死亡した『防ぎえた災害死』の犠牲者が500人以上いた」と言わ

れています。当初DMATは「災害外傷への医療」を主なターゲットにしていました」と話すのは東北大災害研の佐々木宏之准教授。

そんなDMATの在り方が見直された一つ目のきっかけが東日本大震災でした。「死因のほとんどは溺死で、命に関わる外傷を負った人は少なかった。その代わり、高血圧や糖尿病などの慢性疾患や、避難所の公衆衛生へのニーズが大きかったんです」。

# 災害が起きるたびに強くなる。 駆け付ける医療チーム「DMAT」。

check! 02

慢性疾患、災害医療コーディネーター、ロジスティクス。  
浮かび上がる課題を訓練に活かす。

「災害外傷への医療」対応訓練を中心に受けていたDMATは、東日本大震災の被災地のニーズを満たすことができません。規定通り3日の活動が終わった時点でDMATは撤退せざるをえず、次の医療支援の手が入るまでに空白期間が生まれてしまいました。

「その反省から、今は慢性疾患に対する対応教育も行われるようになりました。災害が発生した際に、適切に医療体制を構築する災害医療コーディネーターも重視されるようになり、被災地に入るさまざまな医療チームや地元の保健機関との連携体制も構築されています」。

2016年の熊本地震では、東日本大震災の経験が活かされました。一方で課題も浮き彫りに。「災害によってロジスティクスが長期間機能不全になると、病院の機能維持が難しくなります。今度はロジスティクスが課題になりました」。

DMATにロジスティクスを専門に扱うチームができ、その経験



10月に発生した台風19号に伴う被害において、宮城県庁内に設置されたDMAT調整本部での対策会議の様子。

は今年の台風被害で活かされたと  
言います。

「DMATは、災害が発生するたびにアップデートされ、さまざまな種類の災害に対応できるようになっています。海外からの視察も増えていきます。チームの経験も増え、すぐに訓練に活かす。迅速な対応が、災害医療のレベルを高めているんです」。

# NOW IS. 防災 7.0.1アップデート BOSAI FRONT LINE

PROFILE

ささき ひろゆき  
佐々木 宏之 准教授



東北大学災害科学国際研究所  
災害医療国際協力学分野  
准教授  
東北大学病院総合外科  
宮城県災害医療コーディネーター

Vol.8

## INFORMATION from MIYAGI

### 01 求職者を雇用した沿岸部の 事業主対象助成金のお知らせ

県では、宮城県事業復興型雇用創出助成金の第2期申請を受け付けています。

- 対象  
県内の沿岸部に所在する事業所において、①被災者を雇い入れた事業主  
②住宅支援(住宅借上げ・住宅手当)を導入等した後で求職者を雇い入れた事業主
- 助成内容  
①労働者1人当たり3年間で最大120万円  
②住宅支援に要した費用の一部
- 募集期間  
①雇入費:令和元年12月10日(火)から令和2年1月16日(木)まで  
②住宅支援費:令和2年1月28日(火)まで  
※申請には一定の要件があります。詳しくはホームページをご覧ください、下記にお問い合わせください。

県雇用対策課 ☎022-797-4661

### 02 事業者向け二重債務などの相談窓口

震災により大きな被害を受けた事業者を対象に、支援施策の紹介や事業計画の策定支援、二重債務問題への対応などを行っています。中小企業者のほか、小規模事業者、農林水産・医療福祉事業者など幅広く相談を受け付けています。

詳しくは、下記へお問い合わせください。

- ④宮城県産業復興相談センター  
☎022-722-3858
- ⑤東日本大震災事業者再生支援機構  
☎022-393-8550
- ⑥県商工金融課  
☎022-211-2744



## MEDIA INFORMATION



みやぎ復興情報  
ポータルサイトは  
こちらから!



<https://www.fukkomiyaagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」をリニューアルしました! 復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を  
ブログで!

### ブログピックアップ

黒羽麻璃央の  
宮城の  
おいしいを  
お取り寄せ



黒羽麻璃央

今回、黒羽麻璃央さんがお取り寄せしたのは、東松島市の農業生産法人「アグリードなるせ」が農産物処理加工施設「NOBICO」で製造しているバウムクーヘンの「ちびバウム」。アグリードなるせの取組や、黒羽さんの東松島の思い出とともにご紹介します。

SAMURAI  
JAPAN  
PROJECT  
宮城を世界へ



SAMURAI JAPAN  
PROJECT

真っ赤な甲冑を纏ったサムライが、日本の美しい景色や各地の文化をInstagramで世界に発信しています。現在、北海道から沖縄までキックボードで日本縦断中。

このブログは、SAMURAI JAPAN PROJECTと「NOW IS.」のコラボ企画。日本を縦断中に訪れた「宮城の今」をみなさんと共有できたらと思いを綴ります。3回目は塩釜。塩釜水産物仲卸市場や塩釜港を訪れました。サムライの想いをご紹介します。

「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS. 復興レポート」をご覧ください。

●いまを発信! 復興みやぎ



SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地の「いま」を発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

●NOW IS. メールマガジン

NOW IS. の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。

NOW IS. メールマガジン で検索して登録!



### 懐かしい記憶が残る小乗浜

今回の表紙は、中村雅俊さんの思い出の地である「小乗浜」で撮影をしました。小乗浜にある岩場には「一番やまこ」や「二番やまこ」などと名前がついていて、小学生の頃はその岩場から飛び込んで、勇気を示さねばならないという子どもたちの間の決まりがあったそうです。懐かしそうに話す、中村さんの穏やかな表情がとても印象的でした。



# みやぎのタカラ

Treasures of Miyagi

宮城県が得た震災の教訓や復興の道筋は、未来に役立つ宝に育ちつつあります。  
この地で生きる人々の想いととも、世界に発信していきます。



FILE  
No. 8

## 女川 OCHACCO (おちやっこ)

OCHACCO

東北の味と色を表現した  
日本茶フレイバーティー

フランスを代表する紅茶メーカー  
でフレイバーティーの知識を修得し  
たオーナーが、生まれ故郷の宮城に戻  
って立ち上げた「日本茶フレイバーテ  
ィー」の専門店。静岡の日本茶をベ  
ースに、宮城県産の果物などを取り入れ  
た香り豊かなお茶を製造・販売してい  
ます。

人気は、三陸の海のコバルトブルー  
をイメージした「モノブルー」。北限の  
茶葉として知られる「桃生茶」をブレ  
ンドし、「ブドウやブルーベリーなどの  
青い果実で香りをつけています。ほか  
にも、大崎市で育った「ささ結」の新米  
を使用した玄米ほうじ茶、「ナンブノワ  
ール」に6種の花をブレンドした緑茶  
「ティーブーケ」など、さまざまなお茶  
を販売しています。

2018年にオープンした女川の  
店舗では、お茶の販売とともに、喫茶  
コーナーも。季節の手作りスイーツな  
どとともに、お茶のブローチが丁寧に入れ  
たフレイバーティーを味わうことが  
できます。



NOW IS. **44**

発行：2019年12月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)  
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
Tel: 022-211-2408 Fax: 022-211-2493

『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

 宮城県  
Miyagi Prefectural Government